

1ヶ月滞在型ワーケーションによる 地域とつながる関係人口創出 ～豪雨被害に悩む熊本県芦北町の地方創生～



応募者 株式会社ビジネスクロス
代表 中小企業診断士 宮崎 博孝
熊本県芦北町 長期滞在型ワーケーション推進チーム
中小企業診断士 木内 清人 渡辺 裕
内田 泰裕 木村 和広
前島 瑞希 イラスト提供：村枝 賢一氏（芦北町出身）

芦北町出身のマンガ家 村枝賢一氏より
「芦北町の為に」と特別にイラスト提供を頂きました。





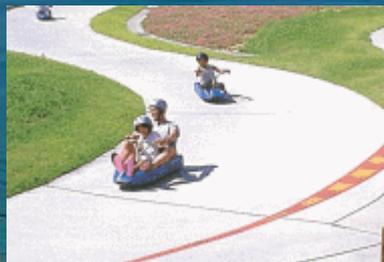
熊本市の南西約60kmの場所に位置しています。
町域西部～北西部は八代海に面し、町域東部の山間部を球磨川が流れています。

人口：15,887人（2020年8月）

面積：234km²



■ ニューススポーツ



出典：芦北町観光パンフレット

■ 観光うたせ船



出典：芦北町ホームページ

■ 御立岬温泉センター ■ マリンパークビーチ



出典：御立岬ホームページ



出典：芦北町観光協会ホームページ

- ✓ 芦北町は、2020年7月の豪雨災害により、河川氾濫、斜面崩壊が発生し、大きな被害を受けています。



出典：芦北町観光協会facebook



出典：「2020年7月豪雨に伴う熊本県南部における災害調査速報」熊本大学



出典：東京新聞



出典：熊本日日新聞

- ✓ 芦北町は、2020年7月の豪雨災害により、河川氾濫、斜面崩壊が発生し、大きな被害を受けています。

■ 土砂崩れ・河川の氾濫

佐敷川の氾濫や土砂崩れによって11人が死亡する大きな被害が起きています。

■ ボランティア

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、広域から多数のボランティアを募集することが難しくなっています。

■ 産業の被害が深刻

町商工会によると、会員企業350社の7割近くが床上浸水し、損害は60億円を超える見込みです。



出典：「2020年7月豪雨に伴う熊本県南部における災害調査速報」熊本大学



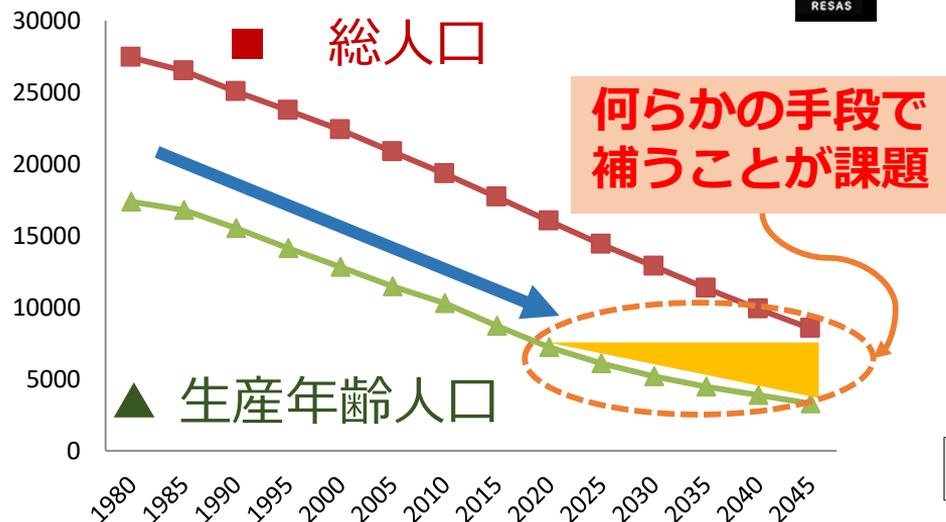
出典：東京新聞



出典：熊本日日新聞

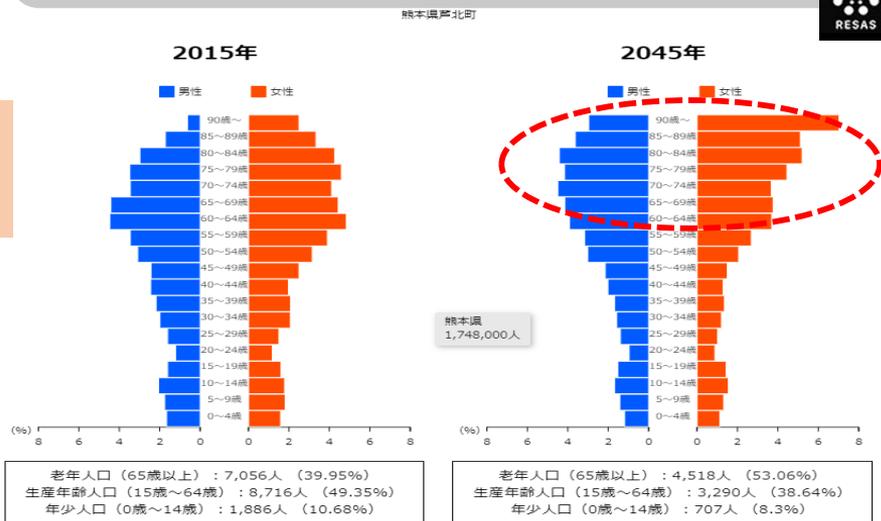
- 人口減少・少子高齢化が進み、復旧・復興の担い手である**生産年齢人口も減少**。
- 生産年齢人口減少分を何らかの手段で補い人材確保（500人規模）が課題。

① 人口推移



総人口だけではなく、復旧・復興の担い手である**生産年齢人口が減少**しています。

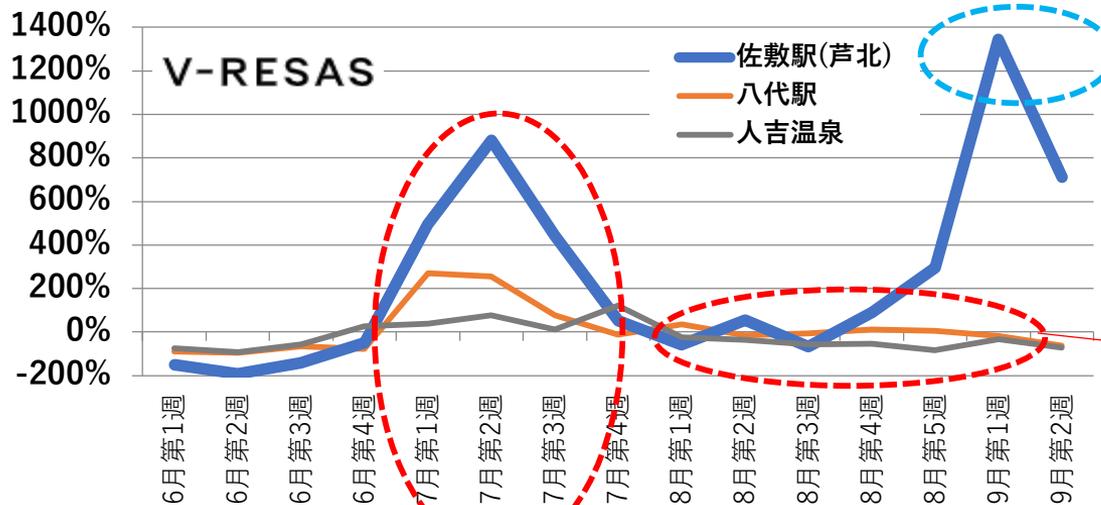
② 人口ピラミッド



2015年に約50%だった生産年齢人口は2045年には40%を切り、老年人口が50%を超えます。**少子高齢化・過疎化は続きます。**

- 災害発生から数週間で県外からの流入は以前と同レベルに戻る。
- 魅力の訴求による継続的な人の流入は可能、ボランティアとのマッチングが課題。

滞在人口の推定居住地（県外からの流入）



Point 3

芦北町が舞台の人気釣りアニメ放映によって、県外から爆発的な人の流入。

芦北舞台の人気釣り漫画 復興に一役 餌箱や塩せんべいにイラスト

2020/8/30 6:01
西日本新聞 熊本版 村田 遼



「放課後ていぼう日誌」登場の釣具店支援 ふるさと納税続々

出典：西日本新聞社
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/640035/>

コロナ禍のボランティアは県内に限定され、**人出不足で復旧が進まず。**



出典：毎日新聞2020年7月27日
<https://mainichi.jp/articles/20200727/k00/00m/040/124000c>

Point 1

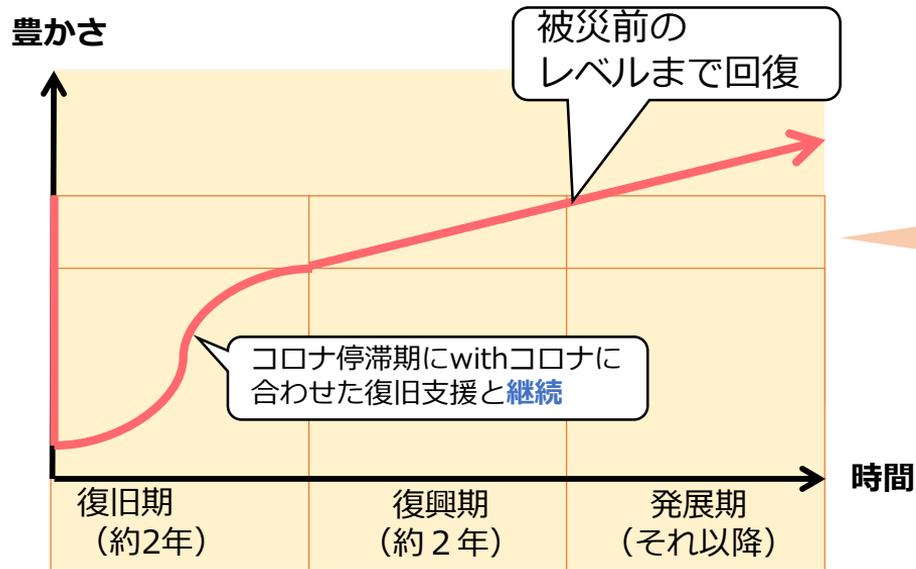
豪雨被害発生直後は県外から被災地に流入。

Point 2

報道がひと段落すると他の被災地は以前の水準に戻る。

- 復旧・復興には数年の期間が必要。
- 復旧を加速化させるために**人員確保とその仕組み**が必要。
- **関係人口を増加（3年間後には500人/月）**させることで課題解決を試みる。

長期的な復旧・復興



平成30年7月豪雨など過去の災害状況から、復旧・復興までには**数年が必要**。

①少子高齢化・人口減少

②生産年齢人口の減少

③コロナ過でボランティア募集制限

復旧・復興の人手確保

魅力の
訴求

関心
関わり

関係人口
創出

人員
確保

1 癒しと楽しみを提供する観光資源



- 日本に3～4か所しかないニュースポーツの体験
- 観光うたせ船などの体験
- 美しい海水浴場の楽しみ
- あしきた牛等の食の楽しみ
- 複数の温泉の癒し

イラスト提供：村枝 賢一氏

3 IT企業と連携の実績



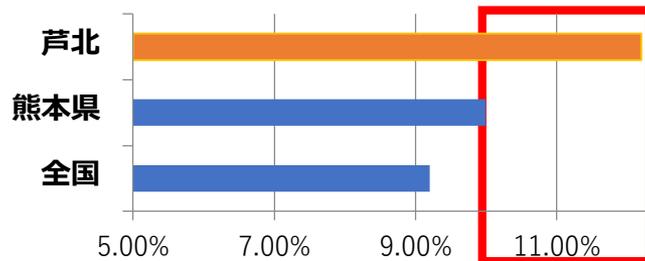
IT企業と連携して廃校をリニューアルし、サテライトオフィス、コワーキングスペースとして活用。
IT企業も入居している。

出典：日経新聞

2 事業所数（RESAS）：建設業



建設業：事業所数の割合（事業所単位）



建設業の割合が多い

4 内在する強い発信力



出典：秋田書店

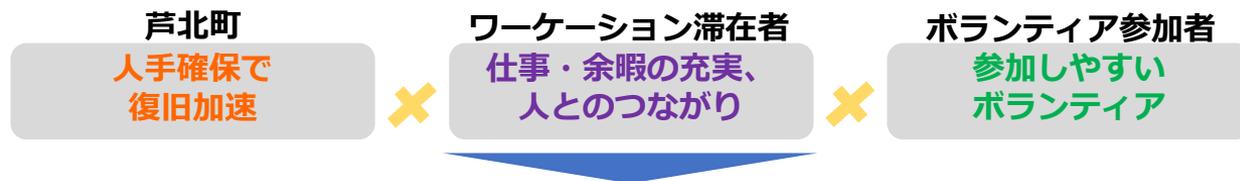


出典：道の駅たのうら

アニメ化された「放課後ていぼう日誌」（作者：小坂泰之氏）は、芦北が舞台。マンガ家の村枝賢一氏は、芦北町出身かつ在住。

- 芦北町の特徴を活かした**長期滞在型ワーケーション**の仕組みづくり。
- Win-Win のマッチングを行い、**関係人口を増やし**課題を達成へ。

芦北町の特徴を活かした**長期滞在型ワーケーション**の仕組みを作ることで、それぞれの課題を Win-Win の関係で解決していきます。



芦北ワーケーションを実現するための5つの施策

提案①

リモートワークで
きる環境の提供

提案②

観光パッケージ
の提供

提案③

生活基盤(1か月)
の提供

提案④

ワーケーション用
デモ住居への改築

提案⑤

ボランティア参加
促進の仕組み作り

ワーケーション滞在者の課題

仕事環境の整備

余暇の過ごし方
(家族対応)

長期ワーケーション滞在者の課題

手軽な荷物
で滞在

長期滞在での
気分転換

経済負担
の軽減

- 20年間で10校以上の**小学校・分校が廃校・休校**。
- 生涯学習センター等で活用中の廃校跡に**追加整備**し、**低コストでリモートワーク環境の早期実現**へ。利用者へ、他にはない**地域色の豊かな体験プログラム**も提供。

提案例：古石地区生涯学習センター（古石小学校跡地）

現在の設備

既存設備

- ▶ 研修室
- ▶ 調理室
- ▶ 体育館
- ▶ 宿泊施設
- ▶ 五右衛門風呂等

既存の体験プログラム

- ▶ そば作り体験
- ▶ 炭焼き体験
- ▶ ソーメン流し
- ▶ 石窯ピザ焼き
- ▶ マイ箸づくり



写真出典：古石交流館ホームページ

地元のそば粉で手打ちそば体験

追加整備

リモートワーク環境整備

- ▶ Wi-Fi等のネットワーク整備
- ▶ リモート会議システム
- ▶ PCやWEBカメラの配備

交通・アクセスの支援

- ▶ カーシェアサービスの提供
- ▶ バス運行
- ▶ レンタル自転車の提供

仕事環境と体験を提供するワーケーション施設へ

更なる活用へ

強固な防災拠点

外部とのネットワーク、情報発信整備が充実した防災拠点としての活用

新連携スタートアップ

IT企業と地元農業・林業・漁業等と新連携のスタートアップの場としての活用

【補足】

▶ 計石小学校跡地は、IT企業のサテライトオフィス・コワーキングスペースとして利用されている実績がある。

- 芦北町の特徴である「海と山と温泉」を含めた一日観光パッケージを用意。
- 農業・畜産業・水産業等の体験ツアーを提供。
- 長期滞在中に芦北町の自然や観光資源を堪能。

観光パッケージ

芦北町の自然や観光資源を楽しむコースをパッケージ化して提供。

「海満喫コース」イメージ

① 御立岬公園 海釣りランド



※釣り道具レンタル

② 観光うたせ船



④ 計石温泉



出典：芦北町観光ガイド

③ 芦北うたせ直売食堂



体験ツアー

芦北町の農業・畜産業・水産業等の体験を経験できるツアーを提供。

デコポン、甘夏などの柑橘の生産が盛ん。また、早生タマネギ（サラたまちゃん）、肉用牛（あしきた牛）、米等も生産。



出典：芦北地方農業振興協議会ホームページ

コンシェルジュセンター

滞在中の観光や体験ツアー、生活面に関する相談を受付ける「コンシェルジュセンター」を設置。

コンシェルジュセンターイメージ



地元詳しいシニアスタッフ等で対応



出典：桜島観光案内所ホームページ
タウンニュース（茅ヶ崎市）
<https://www.townnews.co.jp/0603/2015/10/09/303426.html>

提案③ 1か月間過ごせる生活基盤の提供

12

- 1か月間という**長期滞在**に対し、各種資源をシェアリング形式で提供。
- 滞在者は、**必要最低限の荷物で手軽に滞在**が可能。
- 芦北町にとっては、災害発生時に、集めた資源を活用する事も可能。

ワーケーション基本パック

■ 芦北町で1か月間、**生活する上で必要となるサービスをパッケージ化**して基本パックとして提供。（利用頻度別の複数料金を設定。数千円～数万円）

■ 基本パックの利用の条件として、滞在中の**ボランティア活動への参加が必須**。

■ 町民から不要となった衣服や自転車、家電製品などを集めて実現。

<衣服レンタル>

寒暖時に重宝、気に入れば購入も可

<あしきたの足>

シェアサイクル、シェアバイク

<家電製品や文房具>

家電製品（ケーブル等）、文房具

■長期滞在中の「困った」を解決

「滞在中に、思った以上に寒くなってきた。衣服を買うまでもないのだが、、」

「交通機関（バスや電車など）の時間を気にせずに、買い出しや気になる所に出かけたい。でも、歩くには少し遠いな、、」

「電源ケーブルや修理工具など、ちょっとした道具を使いたい、、」



配送サービス（オプション）

<現地食材パック>
調理レシピ付

<買い物代行>
ECオーダの配送も

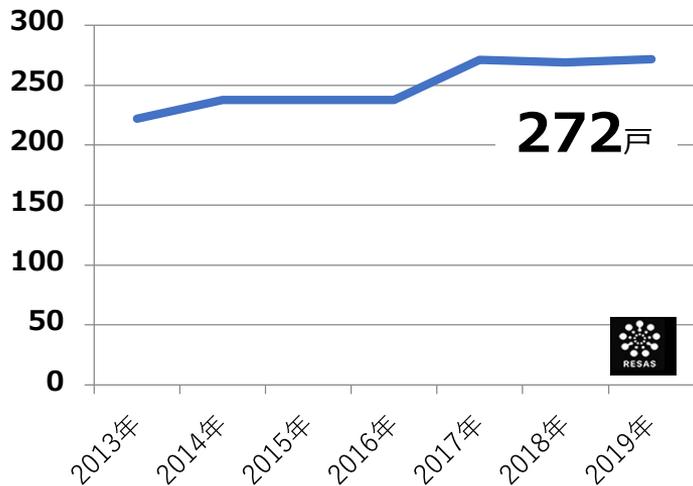
<クリーニング>
集荷、配送

提案④ ワークेशन用デモ住居への改築

- 町内の空家・空き部屋を活用。
- リモートワークツール業者の出資により、自社製品をデモンストレーションできる環境として改築。地元建設業者が改築を担当し、500人規模の住居確保。

① 空家 (RESAS)

町内には**200戸以上**の空家が存在します。



② 空家・空き部屋の活用モデル

需要
拡大



出資

地元
活性化



リモートワークツール業者
需要を取り込みたいツール提供企業による出資。ワークेशन滞在者に営業。

地元の建設業者
芦北町で事業所割合の多い建設業で改築工事を実施。

販売拡大の機会

改築



① 利用



デモ
住宅化

ワークेशन滞在者

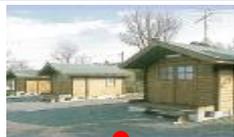
充実した環境、宿泊先の選択肢が増える。リモートワークの多いIT企業や通信業社のワークेशन先として最適。

空家・空き部屋

ツール業者の製品・サービスをデモンストレーションできる環境として改築。**500人規模の様々な特色のある住居の確保。**

- 1ヶ月のワーケーション期間、特色ある住居を一週間単位で住みかえて楽しむ。
- リモートワークの多いIT企業や通信業社のワーケーション先としても最適。

1ヶ月のワーケーション期間中に移転して楽しめる



特色ある住まい

- 温泉付き
- ビデオスタジオ完備
- オーシャンビュー
- デコポン食べ放題
- ログハウス



提案⑤ ボランティア参加促進の仕組み作り(1)

- ワークション滞在者を対象に、滞在中に**ボランティア活動を促す仕組みを構築**。
- 具体的には、**経済的特典**と**精神的充足感**を提供する事で自発的な参加を促進。
- 地域課題である**人手不足を解消**し、災害からの**早期復旧・復興**を実現。



募集中のボランティア活動をネットで検索



No	内容	日付	場所	獲得通貨	参加
1	河川の清掃	8/1 AM	aaa	3,000	
2	海辺の清掃	8/2 PM	bbb	2,000	
3	家屋の清掃	8/3 AM	ccc	2,000	
4	山間作業	8/4 AM	ddd	5,000	
5	河川工事手伝い	8/5 AM	eee	5,000	

参加者のメリット① ～経済的特典～

ボランティア活動内容により「地域通貨」付与。「地域通貨」は芦北町内で利用可能。 * 非接触性、コスト面でも有益

(参考) 地域通貨サービス

地域通貨プラットフォームサービス

chiica [チーカ]

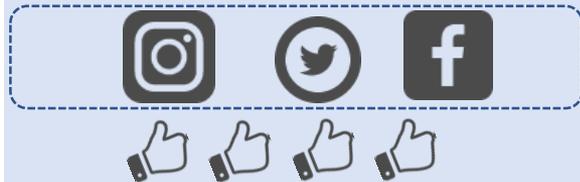
地域の新しいお金

地域で健康に暮らすこと、ボランティアをすること、買物をするなど、そんな普段の暮らしで地域通貨が貯まる、使える仕組みです。

出典：(株)トラストバンクホームページ

参加者のメリット② ～精神的充足感～

活動中の様子をホームページやSNSサイトにアップ。本人のコメントも記載可能で、社会貢献の活動を形に残す事が可能。



拡散による認知度向上の副次的効果

- ワークーション滞在者が勉強会の講師になるボランティア活動の仕組みを構築。
- ワークーション滞在者の知識・経験やノウハウを習得できる。
- 知識と人的交流により新連携促進や産業活性化につながる。

「Ashikita勉強会」の開催

- ワークーション滞在者が勉強会の講師に。
- 勉強会のジャンルは、ビジネスだけでなく、一般知識や趣味など多岐に募集。
- セミナー後に、地域住民との交流懇親会を開催。

講師のメリット

- 地域通貨獲得
- アウトプットの場
- 人的交流
- 結果によっては、再度の講師依頼や副業も



地元のメリット

- 希望する勉強会テーマをエントリー可能
- 勉強会の内容は後日、動画で視聴可能
- 講師コンタクトも可能

■ 勉強会テーマイメージ（東京都葛飾区立図書館ビジネスセミナー）

日付	題名	内容
平成31年1月14日（月・祝）14時～16時	あなたの仕事なくなる！？人間と人工知能の共存に向けて	進化を続けるAI技術。AIは人間の仕事を奪うのか？人工知能とは何かを学びながら、豊かな未来に向けた「人工知能時代の人生戦略」について考えます。
平成31年2月17日（日）14時～16時	みんな納得！提案力アップ！ビジネス文書の作り方セミナー	ビジネスで重要視されながらも、なかなかスキルアップが難しい「文書の作り方」。教材やワークを通じて、伝わる文章の条件・伝わる文章の構成・論理的思考の3つを習得し、ビジネスでの提案力アップを狙います。
平成31年3月10日（日）14時～16時	地図で見える！土地情報を活用した災害リスクマネジメント	近年特に重要な「防災」。いま、防災や土地の歴史に関心のある方が増えています。セミナーでは、オープンデータ・各種地図の活用法や図書館・行政情報の取得・活用法を学びます。その手法から、自分達の土地や地域の「気づき」を得るポイントを押さえるとともに、防災意識の強化を図ります。

出典：（一社）東京都中小企業診断士協会城東支部ホームページ



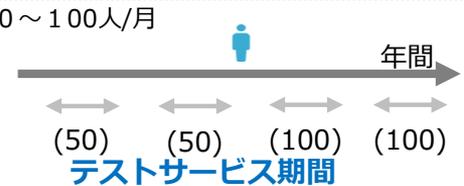
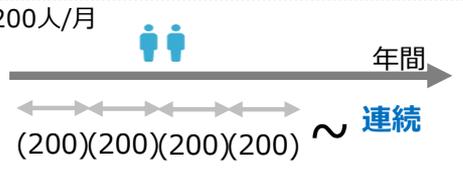
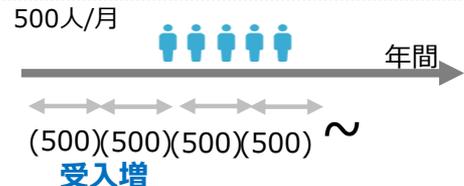
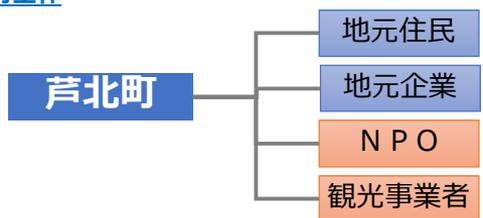
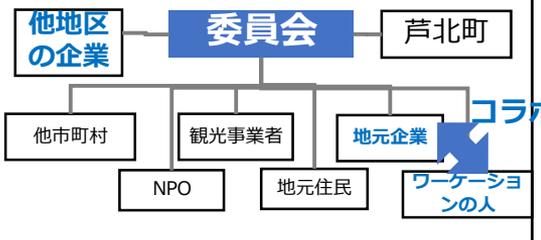
勉強会の後には懇親会開催、さらに新連携のビジネス創出へ

ワークーション滞在者と地元住民の交流や連携を促進させ、ビジネス創出にもつなげていく。

- 組織構築、テストサービスとステップアップし、ニーズにあったワーケーションを現実。
- マンガ家やアニメなどの**発信力**を活用したPR。
- 組織を拡大しながら、関係人口の創出を目指す。

	スタートアップ	3ヶ月	6ヶ月～
目標	STEP1 ■ 基本となる推進組織の作成	STEP2 ■ テストサービスの実施	STEP3 ■ 受け入れ環境の整備開始 ■ 情報発信・PR開始
組織	町主体 	町主体 	町主体
運営	<ul style="list-style-type: none"> 芦北町(行政)が中心となり、地元住民・地元企業からなるスタートアップの組織を形成。 	<ul style="list-style-type: none"> 「提案① リモートワークできる環境」、「提案③ 1か月間過ごせる生活基盤の提供」のテストケース整備。 「提案② 観光パッケージ」のプロトタイプを作成。 モニターツアーを実施し、フィードバックや組織外ブレインのアドバイスを受けながら本プログラムを作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアNPO団体、観光事業者をまじえて、本格的に始動します。マニュアル作成なども実施。 ホームページやSNSで情報を発信。マンガ家などのインフルエンサーの協力を得て、発信力の高いPRを実施。

提案のロードマップ（長期）

	2021年度	2022年度	2023年度
目標	STEP1 <ul style="list-style-type: none"> ■ 長期ワーケーションの仕組みづくり ■ 災害復旧のボランティア確保 	STEP2 <ul style="list-style-type: none"> ■ 1ヶ月定着型ワーケーションの実行 ■ 地元・異業種交流会の開始 	STEP3 <ul style="list-style-type: none"> ■ 地元・異業種交流会による新規産業の創出 ■ 防災施設づくり
ワーケーション滞在人口	50～100人/月  ※ワーケーション滞在者は、1ヶ月滞在と仮定します。	200人/月  ～連続	500人/月  ～受入増
組織	町主体 	委員会の立上げ 	
運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元建設業のノウハウを活用し、廃校をリフォーム。 ・ 環境省のワーケーション助成金を活用し、Wi-Fi整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワーケーションの人や他の市からの参加も募り、委員会を立ち上げます。 ・ 地元とワーケーションで訪れる人の異業種交流会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地区のからも企業参加企業を募り、規模拡大。 ・ 地元・異業種交流会を通じて、ワーケーションの人材と地元企業が連携し、新規産業の創出。

■ 参考：直近の確度の高いターゲット数

※1 出典：ITmedia ビジネス <https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2009/23/news131.html>
 ※2 出典：「平成28年社会生活基本調査結果」（総務省統計局）

西日本の情報サービス業の従業員数  × IT・インターネット業界の毎日リモートワーク実施率※1 × 災害ボランティアの行動率※2 = **512 人**

初年度から合計500人規模のターゲットを見込むことができる。

芦北町

リモートワーク

ボランティア

課題

豪雨災害からの復旧・復興
人材の確保

体・メンタルの不調
新しい人との繋がり喪失

休暇・時間が取れない
経済負担・宿泊の手間

出典：東京新聞



魅力を
活用して
構築

ボランティアと
マッチング

芦北町 1ヶ月滞在型ワーケーション

関係人口の
創出

芦北へ
関わり・関心向上

仕事・余暇の充実
新しい人との繋がり

参加しやすい環境
時間・経済負担の軽減

たまにはゆた〜っとせなんばい！
あしきたにきてはいよー。



イラスト提供：村枝 賢一氏



ご清聴ありがとうございました